

レッド・ウィング2015年新作をアップデート!

RED WING

2015

NEW MODELS

文・飯野高広(P14-15)、佐藤大典(P16-23)、本誌編集部(P4-5、P6-13)、写真・藪崎 大(WPP)

今秋発売するモデルも含めて、レッド・ウィングの2015年ニューモデルが出揃ってきた。さっそくではあるが、巻頭にあたってそれらの一部をご紹介することにしよう。まず注目したいのは、レッド・ウィングが110周年を迎える今年、それを記念するモデルとして発表した「110周年記念ブーツ“HUNTSMAN”」だ。レッド・ウィング社成功の象徴である#877のルーツともなり、同社の長い道のりを表わすブーツが完成したのだ。20世紀初頭の靴を思わせるレッド・ウィングのもうひとつの機軸、クラシックドレス・ラインには、「ジラードブーツ」、「キャバリーチャッカ」がラインアップされた。ソールやレザーにこだわり、「魅せるワークブーツ」のレンジをさらに広げている。ワークブーツの本線を体現するヘリテージワーク・ラインには、「(ワイドパネル) ラインマン」、「ロメオ」、オロラセットの「エンジニア」をラインアップ。ベーシックなスタイルを維持しながら今日のテイストを加味している。サービスシュー／ワークオックスフォード・ラインからは、ゴールドラセットがアイコンであるアイリッシュセッターの短靴「アイリッシュセッターオックスフォード」と、ポストマンの6インチ丈「ポストマンブーツ」が加わった。いずれも同社のアーカイブに範をとりながら、アップデートされたデザインが見てとれる。

p06



#2015
110th ANNIVERSARY BOOTS

今年創立110周年を迎えるレッド・ウィングの、その歴史が感じられるアニバーサリーブーツ。

p08



#9090 #9091
GIRARD BOOTS

アメリカ開拓時代の紳士靴の主流であった6インチ丈、伝統のモックトゥを今日流に再現。

p08



#9095 #9096
CAVERLY CHUKKA

ヘファーハイドを使い、レッド・ウィングがドレスラインにさらに踏み込んだ注目のブーツ。

p12



#2995 #2996
(WIDE PANEL) LINEMAN

レーストゥートゥとワイドパネルの優雅でクラシックなシルエットに魅了される、美しきワークブーツ。

p16



#8142 #8145
ROMEO

脱ぎ履きしやすいサイドゴアを配したスリッポンタイプ、レッド・ウィングから久々の再登場。

p18



#9895
IRISH SETTER OXFORD

ゴールドラセットを使い、1950年代半ばのオックスフォードのディテールを再現した渾身のモデル。

p20



#8271
11" ENGINEER (STEEL TOE)

人気のオロラセット“ポーテージ”を採用した、色鮮やかなエンジニアブーツが帰ってきた。

p22



#9197
POSTMAN BOOTS

ポストマンとポリスマンのためにつくられた、9つハトメの6インチブーツが半世紀を超え登場。

RED WING 2015 NEW MODELS

diggin'
into RW



滑りにくくするため、ラバーに混ぜソールに入れて成型されたコード(紐)。



ハンツマンのネタ元となった1930年初頭まで製造されていた#668。甲のモカシン縫い部分は、ウエルトをソールに縫いつけるミシンを使用して縫い合わされており、当時の他のモカシンよりも強靱な構造になっていた。



1960年代中頃から1996年まで使用されていたプリント羽根タグを再現。1980年代後半まで採用されていた、クォーターの内側のスタンプを復活。1962年まではほとんどレザーレースだったことにちなみ、ブラック「クロンダイク」の色に合わせたコーヒーカーラのクラシックなレザーレースを採用。創業間もない頃から1990年代中頃まで、レッド・ウィングの商品には右足のクォーター内側上部に「RED WING」の刻印を施していた。

レッド・ウィングの 新たなソール「グロコード」

今年、レッド・ウィングの新しいソールとして開発された「グロコード」。もともと、グロコードソールはオハイオ州のリマ・コード・ソール&ヒール社が1920年代にレッド・ウィング社のために開発したラバーソールである。コード(紐)をラバーに混ぜて成型し滑りを防いだことで、ワーカーの作業場やハンターのフィールドでも成果を発揮した。このグロコードソールが時を経て、今日レッド・ウィングのソール、コードソールへ発展した。1920年代後半には、いくつかのトレッドパターンのものが開発され、その機能の幅を広げ、さまざまなモデルに採用されたソールである。クラシックなワークブーツがもつ意匠として注目すべきポイントである。



1950年代に使われていたグロコードソール。

同社の古いカタログから。酋長ワクタ・レッド・ウィングのロゴが入ったグロコードソール。



戦前のアメリカのハンティングブーツの多くはブラックのレザーだったので、ハンツマンではブラック「クロンダイク」レザーを使用。履きこむにつれ、レザーの塗膜が色落ちし、経年変化を味わえる。

No.2015 Huntsman

レザー/ブラック「クロンダイク」
製法/グッドイヤーウエルト
ソール/グロコードオンレザー
ラスト/No.326
サイズ/D7-11、12、13 E7-11、12、13
価格/5万9400円

110年の歩みを体現するモデルなのである。

ハンツマンはこのように、同社のハンティングブーツの原点に立ち返り、進化の道のりのおかげで身につけた仕様を今日的に生き返らせた、まさにレッド・ウィングブーツ110年の歩みを体現するモデルなのである。

今年110周年を迎えるレッド・ウィング社の記念モデル「ハンツマン」は、1930年代のハンティングブーツ(#668)をベースモデルとして作る。

#668はレッド・ウィング社で初めてハンティングに特化して開発されたモデルで、ブラッククロームレザー(現在のものとは違い油分が多い)とコードソールを使ったモカシントウの10インチ丈ブーツであった。1939年には生ゴム素材のクレープソールに変更した#686を開発したが、そのクッション性と静音性から、獲物に気づかれにくいという理由で、ハンターたちにアピール、これがのちにトランクシヨントレッドソール開発のヒントとなる。

#2015 110th ANNIVERSARY BOOTS "HUNTSMAN"

今年創立110周年を迎えるレッド・ウィングの、その歴史が感じられるアニバーサリーブーツ。





No.8173
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/ホーソーン"アビレイン"ラフアウト
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E4-11, 12, 13
価格/3万9852円



No.8876
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/カッパー"ラフ&タフ"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E4-11
価格/3万9852円



No.8875
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/オロラセット"ポータージ"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E4-11, 12, 13
価格/3万9852円



No.8179
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/ブラック"クローム"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E4-11, 12, 13
価格/3万9852円



No.9875
Irish Setter
6" Moc-toe

レザー/ゴールドラセット"セコピア"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E6.5-11
価格/4万4820円



No.9874
Irish Setter
6" Moc-toe

レザー/ブラック"クロンダイク"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E6.5-11
価格/4万4820円



No.9850
Irish Setter
6" Canoe Moc

レザー/ゴールドラセット"セコピア"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E7-11
価格/5万6808円



No.9851
Irish Setter
6" Canoe Moc

レザー/オロラセット"ポータージ"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E7-11
価格/5万6808円

RED WING
[HERITAGE WORK]
CLASSIC WORK
6" MOC-TOE



No.875
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/オロ"レガシー"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/トラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E4-11, 12, 13
価格/3万9852円



No.8852
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/ベルバ"リタン"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/ブラックトラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E6.5-11
価格/3万9852円



No.8853
Classic Work/
6" Moc-toe

レザー/インディゴ"ポータージ"
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/ブラックトラクシヨントレッド
ラスト/No.23
サイズ/E6.5-11
価格/3万9852円

【基本データ】

レッド・ウィングと聞いて誰もが最初に思い浮かべるモデルは、日本では恐らくこれだろう。狩猟向けに1930年代後半に開発されたブーツに起源をもち、その後の同社繁栄の基礎となった8インチブーツ#877、その6インチモデルである#875だ。登場は1954年。足扱いに優れたモックトゥと、クッション性が高くかつ軽量のトラクシヨントレッドソール、さらにはオイルの豊富なオロラセットレザーを用いたアッパーの組み合わせは、この靴を単なるハンティングブーツからアメリカ全土を支えるワークブーツへと昇華させた。登場後半世紀以上たった今、その存在感がますます輝きを増しているのも頷ける。

diggin' into RW

【基本データ FOREMAN】

和訳すれば工場長や職長の意味となるフォアマン。レッド・ウィングのこの靴はその言葉通りの頼もしさを感じさせるオックスフォード(短靴)だ。ルーツは1940年代に開発された#533で、これはワークブーツのラウンドトゥの木型で、油に強く耐久性の高いニトリルコルクソールを底材に用いた最初のオックスフォードである。当時増加した、事務所ではなく製造ラインに常駐し指導・監督する立場の人々向けに、これらのスペックを採り入れた。フォアマンにも当然それらを盛り込んでいるが、現代的な改良も忘れていない。例えばアッパーのクロームレザーは通常はブーツのみに用いる分厚いものとし、つま先部はレザーライニング仕様としている。そしてアウトソールも前半分のみミッドソールをつけた凝った意匠とすることで、今日のユーザーが着こなすファッションに合わせた、迫力あるシルエットを実現しているのだ。



当時はこのようなクッションクレープソールのモデルも存在。

く(り)の意識が「一気に高まった頃にはすでに存在していた。低姿勢で踏ん張ってタイヤを交換したり、仰向けで車の下に潜り込み部品交換したり……オートメカニックすなわち自動車整備工にとっては、足首を拘束し過ぎないオックスフォード(短靴)の方がブーツよりもまさに目的に合う。レッド・ウィングはそんな彼らの動きに合わせた靴を、かなり早い段階から用意していたわけだ。やがてこの種の靴は彼ら以外の多様なユーザーに広まっていく。特定の目的をしっかりと追求すると、結果として汎用性・普遍性も伴う。ガレージマンはそんな歴史を積み重ねたレッド・ウィングだからこそ再創造できた靴なのである。(飯野)



特定の用途を追求したからこそその「普遍性」

RED WING

[SERVICE SHOE/WORK OXFORD]

GARAGEMAN & FOREMAN



No.9202 Garageman

レザー/チョコレート「シャバラ」
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/ブラウンネオプレンクッション
ラスト/No.23
サイズ/D6.5-11
価格/3万9960円

No.9201 Garageman

レザー/ブラック「シャバラ」
製法/オールアラウンド・グッドイヤーウエルト
ソール/ブラックネオプレンクッション
ラスト/No.23
サイズ/D6.5-11
価格/3万9960円



【基本データ GARAGEMAN】

自動車整備工向けに1953年に登場した#466をヒントに生み出されたガレージマンは、そのルーツ通り狭くて低い場所でしゃがんだり力を入れたりを繰り返す作業に向けた意匠を数多く採り入れている。例えば木型は#875や#877と同じNo.23で、トゥボックスの高さがあるので指でのまねきや踏ん張りがしやすい。また「甲のカエリの良さ」と軽さを重視し、アッパーには光沢のあるコレクテッドグレインレザーのシャバラを選択したのも特徴。トラクションソールと同じクッション性をもつ素材でありながら、ヒールがついている。一体型なので釘でヒールを打つことなく軽量に仕上がるのが長所のひとつ。ソールのなかほどはトラクションソールよりも薄くなっているため靴の反りがよく、しゃがんでの作業にも都合がいい。このような仕様のおかげでガレージマンは、IT関係の配線やチェックなど、彼らと似た動きを頻繁に行なう昨今のビジネスマンにも極めて有用な一足となっている。



diggin' into RW

アップパーの革に見るレッドウィングの今昔

「オアマン」とは製造現場のワーカーとオフィスの管理職の間に立ち品質と効率の双方をチェックする、大量生産時代に不可欠となったポジション。20世紀中盤の彼らが足を通した#533を当時のレッド・ウィングのカatalogで確認すると、例えばハトメやコルクソールの種類など今の「フォアマン」との違いが幾つか見られる。なかでも最大の違いはアップパーの革で、#533の革名はエルクと記されている。エルクとは本来は大型の鹿のこと。そのレザーは厚く油分に富み、高い耐久性のわりにソフトなことが特徴だ。ところが厄介なことに、それに似せた型押しした牛革「エルクグレイン」を略してエルクと呼ぶ場合も昔から多いのである。#533以外にも当時のレッドウィングがワークブーツで多く用いていた「エルク」は鹿革、牛革、果してどちらだったのだろうか。(飯野)



No.8050 Foreman

レザー/チョコレート「クローム」
製法/グッドイヤーウエルト
ソール/ブラウンニトリルコルク
ラスト/No.8
サイズ/D6.5-11
価格/3万9960円



#533が載る'50年代のカタログのページ。6足中4足のアップパーにエルクが用いられている。